

## 令和5年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 常盤中学校）

学校番号 202

【様式】

目指す学校像	“TEAM TOKIWA” PRIDE =輝く常盤中= わかる授業 明るい学級 夢をはぐくむ学校
重 点 目 標	1 ICTを活用した学びの自律化と個別最適化 2 生徒主体の活動の充実と非認知能力の向上 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 持続可能な働き方と教育活動の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的な方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
	B 概ね達成 (6割以上)
	C 変化の兆し (4割以上)
	D 不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和6年2月20日
番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【学力向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学・理科の結果は、全国、市平均と比べ、概ね良好である。 ○全国体力・運動能力、生活習慣等調査において、実技集計の結果は、全国、市平均と比べ概ね良好である。  (課題) ○全国学力・学習状況調査の自校結果分析から、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」の問い合わせで、肯定的評価は、県・国平均を上回っているが、自校生徒の実態を踏まえ、更に高めたい。	・GIGAスクール構想を活用したアクティブラーニングの推進	①「主体的・対話的で深い学び」についての研究を進め、デジタル教科書やICT機能を活用した授業により、生徒の学び続ける意欲・態度を高める。 ②全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査について、採点結果から生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	①学校評価「自ら考え、周囲と話し合う学び」の生徒肯定的回答は、97%と、目標を上回る結果となり、高い成果を挙げることができた。 ②学習状況調査の採点結果をもとに、生徒自らがこれまでの学習を確認、評価し、今後の学びに生かすことができたか。	①学校評価「自らの考えを持つ、他者と話し合う学び」の生徒肯定的回答は、97%と、目標を上回る結果となり、高い成果を挙げることができた。 ②学習状況調査の結果を教科指導において適宜解説や活用を図ったことにより、生徒自身が学習内容の理解度を自ら振り返り、既習事項等一層の定着に資することができた。	A	ICTの利活用を更に加速させることができ課題と捉える。クラウドの活用による、児童生徒の探究的な学びの実現を目指した本市独自の取組「学びのポイント『じ・し・や・ク』」の展開を図り、教師の指導力向上及び授業改善、生徒の主体性の育成に努める。
	・個別最適な学びの実践と、読解力向上、学びの自律化	①日課表を見直し、朝読書の時間を確保することで読書に親しみ、生徒の読む力を高める。 ②「ドリルパーク」「スタディサプリ」の活用や、チャレンジスクールへの参加を通して、個に応じた学びを推奨する。	①毎日の生活に「朝読書」の時間を確保できたか。集中して本や資料を読むことができたか。 ②単元や学期ごとに、生徒それぞれの学習への取組状況を確認し、個々の努力を承認したか。	①朝読書（毎日10分間）を日課に位置付け、静謐な読書時間を定着させた。学校図書館の一人当たりの貸出冊数は、4.5冊で本市中学校図書館における平均数を上回った。 ②生徒個々の学習状況をレポート、プレゼンや定期検査等多面的に見取り、教科的称賛を重ね、学習意欲の向上を図った。チャレンジスクールは、延べ400名の参加となり、学びへの自主性を涵養した。	B	個別最適な学びの具現化が課題と捉え、今年度より開始した不登校生徒を対象としたオンライン学習のより良い在り方等（評価や学習効果等）について研究を推進する。併せて、学習室の機能や運営についても、全市で導入する校内教育支援センター（Solaるーむ）の視座から取り組む。	
2	【安心・安全に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合が全国、市平均と比べ、高い。 ○昨年度、登下校中の怪我が4件発生した。自転車と、自転車や人、物との接触事故だった。  (課題) ○covid-19の5類移行など、アフターコロナに転換しつつある中、コロナ禍の感染状況等により、教育活動の制限や学級閉鎖等が、いつ起るかわからない状況にある。 ○築50年を経た校舎や施設について、老朽化による破損等が多い。	・生徒一人ひとりの人格を尊重した生徒指導の充実	①目と目を合わせた毎朝の健康観察や何気ない会話から、生徒の小さな変化を見逃さない風土をつくる。 ②毎学期の「ほのぼのタイム」や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ③生徒の主体性を生かした生徒委員会や部活動での取組を支援、推奨する。	①各学級で担任等による一日の始まりが円滑に行えたか。 ②生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ③学校評価「係や委員会活動等に積極的に取り組んでいる」生徒の割合が95%以上となったか。	①朝の出席確認では、生徒と視線を合わせ呼名した。教職員間では、生徒個々に関する会話や気付きを共有し、支援に生かせた。 ②「ほのぼのタイム」を効果的に活用し、生徒一人ひとりに寄り添った相談を担任や組織で丁寧・迅速に行うことができた。 ③生徒の回答は96%と前年より高まり、生徒の自主的に活動する姿が一層増えている。	A	誰もが心に不安や悩みを抱える発達段階を迎えた生徒に対し、個に寄り添った指導の拡充が、一層求められる。引き続き、豊かな体験活動を推進し、非認知能力EQ（協調性や共感力、思いやり、創造力、状況把握能力等）を向上させ、心の下支えを進める。
	・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①自転車通学を中心とした交通安全に関する集会を設け、登下校等、移動時の事故を未然に防ぐ。 ②各自の責任と生徒委員会活動の徹底により、コロナ感染症拡大防止行動を継続する。 ③施設設備の安全点検等から、不具合を早期発見し、素早い修繕等に繋げる。	①適宜適切な安全集会を開催し、生徒自身が身を守る意識を高めることができたか。 ②学校評価「感染対策を心がけて生活している」生徒の割合が95%以上となったか。 ③施設等の瑕疵を見過ごすことなく、修繕することができたか。	①年度当初や安全を脅かす事案が発生した際には、交通ルール遵守の大切さを集会で呼びかけた。また地域やPTA、警察等の協力のもと、登下校の見守りを実施した。 ②生徒の回答は96%となり、感染症を防止するための行動が維持できた。 ③定期的に施設を点検し、予算の範囲内で修繕を行ったり、依頼したりした。	B	生徒にとって学校が居心地のよいWell-beingな場所となるために、生徒が主体となった活動を一層推進する必要がある。 今後も、生徒委員会活動の一環とした生徒朝会の拡充を図り、生徒の自治意識の涵養と自治的運営を支えていく。	
3	【開かれた学校づくりに関する取組】 (現状) ○今までの学校運営協議会において、生徒に身に付けさせたい力について熟議を重ねた。その結果、コミュニケーション力の育成に向け、あいさつの励行を徹底することを共有した。  (課題) ○covid-19の5類移行など、アフターコロナに転換しつつある中、コロナ禍の感染状況等を踏まえ、学校からの情報発信とともに、土曜授業や学校行事等の保護者・地域への適切な公開を適宜実施したい	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニケーション・スクールの始動	①生徒の成長を支える当事者としての自觉を生徒自身、職員、保護者、地域住民それぞれに促す。 ②育てたい力「コミュニケーション力」の育成に向けた挨拶を励行する。 ③関係小学校との連携により、学校運営協議会を円滑に開催する。	①生徒への意識付け、保護者会等での説明を年度当初に行えたか。 ②目指す挨拶の仕方・姿を検討し、学校、家庭、地域で共有できたか。 ③常盤小学校、常盤北小学校との情報交換を密にし、同一の目標に向かって生徒の活動を支えたか。	①年度当初の保護者会等で、生徒を支える望ましいセーフティーネット構築への協同を懇願した。 ②学校運営協議会に生徒・職員も参画し、挨拶の意義から熟議を重ね、その結果を地域・生徒・保護者へ伝え共有した。 ③小・中合同の学校運営協議会やあいさつ運動を実施し、相互理解の深化を図った。	B	保護者の来校機会や地域との関わりが増え、学校の様子や日々の生徒の学びの姿の発信ができる。また、生徒が、幼稚園、小学校や地域社会で学ぶ活動を取り戻し、多様な学びの具現化を図るとともに、情報発信及び交流ができている。今後も、一層の拡充を図りたい。
	・便りやHP、安心メールを活用した情報発信と、教育活動参観の機会設定	①学校HPの時宜的な更新や、毎月の便りの発行等により学校の情報を広く公開する。 ②学校運営協議会の様子を知らせる便りを新たに発行し、学校・家庭・地域が一体となった活動を共有する。 ③アフターコロナを踏まえ、学校教育活動の参観、公開を適宜実施する。	①学校評価「情報をわかりやすく発信している」と思う保護者の割合が90%以上となったか。 ②「コミュニケーション力・スクール便り」を発行し、活動を地域へ伝えることができたか。 ③毎学期、保護者の学校への来校機会を設定できたか。	①保護者の回答は91%となった。肯定的なお声を頂いている。 ②学校、PTA、生徒会が其々便りを発行し、学校運営協議会の熟議内容や活動等を広報した。また、生徒会は全校集会でもPRした。 ③学校行事の公開、保護者会（毎学期）、学級懇談（4月、3月）の実施等、生徒の様々な躍動の様子を共有する機会を設定した。	A	伝達する情報の趣旨を踏まえた伝達手段の在り方について、ICTの利活用等研究を進める。また、文化部が公民館や商業施設での作品展示や演奏披露等を行うなど、地域との絆を深めることができている。 引き続き、地域とのインテラクティブなコミュニケーションの在り方も課題としたい。	
4	【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○ストレスチェックの結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かしたOJTが進められ、よい環境にあることがわかった。 ○学校課題研究を中心に、ICTの活用等、研修が計画的に行われている。  (課題) ○全職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと高信頼性組織の意識付けが求められる。	・協調と創意を基盤とし、挑戦を奨励する組織の醸成	①「ICTの活用を通じた持続可能な指導の研究」について、校内研修を通して学び合い、指導に生かす。 ②職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。 ③“チーム常盤”的な教育活動の充実を図るために「情報の共有化」「場の共有化」「目標の共有化」を有機的組織として構築する。	①ICTを活用した授業の実践、研修を通して、生徒一人ひとりの学習進度や習得状況、興味関心に応じた学びの場や機会の創出ができたか。 ②職員個々が計画した人事自己評価における「研修」が予定通りに進められたか。 ③教職員の同僚性、協働性を高めることができたか。	①市教委指導主事を招聘しての研修、小中一貫教育合同研修、ICT機器操作向上研修、定例校内研修を重ね、生徒の実態に応じた指導の工夫・改善を図る姿勢が向上した。 ②人事当初面談で策定した研修内容を教員各々が目的化し主体的に自己研鑽に努め、資質向上に努めた姿が多く見られた。 ③“チーム常盤”というキャッチワードを常に声に出し、仕事に厳しく、人に優しい和やかな“同志”としての関係を尊び、生徒を守るプロ教師集団創りを進めた。	A	公教育における不易と流行を追求する中、これから指導の在り方や働き方にに関する研究も求められている。 ICTを活用した学びの推進とともに、新たに導入されるスクール・ダッシュボードを活用した生徒の学習・生活・健康面の記録や教員の指導・支援の記録の蓄積を業務改善につなげていく。 キャリアステージに応じた教師力向上とワークライフハーモニーの醸成に尽力したい。
							・民間と同等に先生方の働き方改革が改善されているのか、ストレスチェックなどは行われているのか、今後ゆとりが持てるよう期待する。 ・先生方の働き方改革として、県と大きく違う点はデジタル化が進んでいないので、会議のお知らせをメールで、会議資料を添付で送り、当日は個人がPCやタブレットを持参するように改善されることを期待する。

